

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
		○		

事務事業No 606 事業名 小学校交流事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		小学校費	
	目		小) 学校管理費	
	大事業		小学校管理事業	
	事項		小学校交流事業	

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	1	学校教育の充実
施策	3	小・中学校教育の充実
取組	1	豊かな人間性の育成を目指す教育の推進

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間	平成13年	～
事業実施の根拠法令		
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	学校教育課	
関連課		

「3つのキーワード」との関連性

いのちを守る	人と文化を育てる	ふるさと力を高める	該当せず
	○		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か)	事業内容				
	対象：加太小学校5年生 目的：川上小学校5、6年生と交流し、様々な体験を通じて人間形成に役立てる。	加太小学校5年生の児童が、7月下旬に1泊2日で川上村をバスで訪問し、森と水の源流館や大滝ダムを見学するとともに、川遊び、アマゴ取り等を体験する。川上小学校の5、6年生が加太を1泊2日で訪問し、海水浴、海釣りや料理教室等を体験する。なお、料理教室等を実施するにあたり、料理教室の講師謝金及び材料費として消耗品費を計上している。				
実施内容		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		水源地域との交流を促進し環境学習の機会を設けることで、水資源の保全と水源及び森林保護への相互理解を深める。	水源地域との交流を促進し環境学習の機会を設けることで、水資源の保全と水源及び森林保護への相互理解を深める。	水源地域との交流を促進し環境学習の機会を設けることで、水資源の保全と水源及び森林保護への相互理解を深める。	水源地域との交流を促進し環境学習の機会を設けることで、水資源の保全と水源及び森林保護への相互理解を深める。	水源地域との交流を促進し環境学習の機会を設けることで、水資源の保全と水源及び森林保護への相互理解を深める。

2 事業コスト

	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算
事業費	180	179	180	179	180	179	435	418	360	
伸び率 (%)	-	-	0.0%		0.0%		141.7%		-17.2%	
人件費	常勤職員	1,455	1,312	1,455	2,156	1,455	1,870	1,870	809	809
	非常勤職員									
	小計	1,455	1,312	1,455	2,156	1,455	1,870	1,870	809	809
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他										
一般財源 (税等)	180	179	180	179	180	179	435	418	360	
所要人数	常勤職員	0.19	0.17	0.19	0.29	0.19	0.25	0.25	0.11	0.11
	非常勤職員									
主な予算内訳	報償金50千円、消耗品費130千円、自動車借上料160千円									

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況			平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
活動指標	交流回数				年度目標値	2	2	2	2
					実績値	2	2	2	2
	単位	回	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度				
成果指標	川上小学校を訪問した加太小学校児童数				年度目標値	32	23	26	26
					実績値	32	23	26	26
	単位	人	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度				
加太小学校での交流会参加児童数				年度目標値			26	18	
				実績値			26		
単位		全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性(担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	川上村川上小学校との交流により、互いの住む地域の自然や人々と触れ合う活動を通して友情を温めるとともに郷土愛を育んでいる。子どもの豊かな心と身体を養うために一層重要となる事業である。
「見直し」「改善」案 ※上記、「今後の方向性」において、「事業内容」、「コスト投入」の方向性が共に「現状維持」以外の場合は記載	